

# 犬吠埼灯台周辺の観光の変化に関する研究

国土館大学工学部 学生会員 ○本多 弘樹  
国土館大学工学部 正会員 二井 昭佳

## 1. 研究の背景と目的

全国各地にある灯台には、観光名所として認知されているものが多い。しかし、そもそも灯台は、海上交通の安全を支える為に造られたものであり、そうした実用的な構造物がいつ頃から、どのようなきっかけで、観光対象になったのかはよくわかっていない。そのような灯台のひとつに犬吠埼灯台がある。

犬吠埼灯台には年間約14万人が訪れる犬吠埼のシンボルであり、銚子の観光名所になっている。この灯台は、犬吠埼一帯に小島や岩が多く昔から海上交通の難所とされてきたことから、1972(明治5)年にお雇い外国人H・ブランドンによって設計され、1974(明治7)年に点灯が始められた。

また、現在の銚子電鉄は、もともと1913(大正2)年に銚子から犬吠埼へと観光客を運ぶ目的で開通し銚子遊覧鉄道として始まった。しかし、利用者が少なく赤字経営が続いたことで、わずか4年後の1917(大正6年)に廃止される。その後、大正12年に銚子鉄道として再び復活している。

こうしたことを考えると、犬吠埼灯台は建設当初には犬吠埼のシンボルとしては認識されておらず、その後、なんらかのきっかけにより銚子のシンボルへと変化したと考えられる。

そこで、灯台ができる以前から戦後直後までの間における犬吠埼周辺の空間の変遷や人々の見かたの変化について整理することで、灯台がどのように観光地として人々に認知されていったのかを考察する。

具体的には、灯台建設以前から1950年までの

- a) 犬吠埼周辺の空間の変遷
  - b) 岬や灯台に対する人々の見方の変化
- を整理するなかで、犬吠埼の観光の変化を明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

研究の方法は、まず①空間の変遷について地形図や文献を用いて犬吠埼灯台周辺の空間の変化を整理する。その後、②人々の見方の変化について当時の観光案内書や銚子に関する絵はがきを整理し考察をおこなう。観光案内書は、灯台建設時から戦前までに発刊されたもののうち、日本全国や房総半島、千葉県などを対象

としている42冊を参照した。

## 3. 犬吠埼灯台周辺の空間の変遷

ここでは、犬吠埼灯台へのアクセスとして重要な銚子遊覧鉄道(現:銚子電鉄)の変化に沿って6つの時期に分けて灯台周辺の空間の変遷を整理した。

表-1 空間の変遷

(1) 犬吠埼灯台建設から総武鉄道延長計画まで (1872(明治5)年~1908(明治41)年)
1872年に犬吠埼灯台が建設され、1897年には総武鉄道の東京-銚子間が開通した。総武鉄道の外川までの延長計画が1900年に計画されるが実現することはなかった。犬吠埼への公共交通機関によるアクセスは無く不便だった。
(2) 人車鉄道計画から銚子遊覧鉄道計画まで (1909(明治42)年~1912(明治45)年)
1909年に犬吠埼までのアクセスを良くしようと人車鉄道の計画がある。区間は現在の県道244号、外川港線の道路上に敷設するプランだったが採用されず、次に銚子遊覧鉄道の建設計画があがった。
(3) 銚子遊覧鉄道の開通から廃止まで (1913(大正2)年~1917(大正6)年)
1913年、銚子と犬吠埼を結ぶ初の鉄道が完成した。この鉄道の完成は銚子の観光に与える影響が大きかったが、夏季の海水浴客の利用が、年間の乗客数の主であり、赤字経営が続き4年間で廃止となった。
(4) 銚子遊覧鉄道廃止の区間 (1917(大正6)年~1922(大正11)年)
遊覧鉄道の廃止により、またも犬吠埼への交通機関がなくなったが、遊覧鉄道の線路跡地を自動車専用道路として利用し、犬吠埼にある暁島館が往復を始め、観光客を運んだ。
(5) 銚子鉄道の開業から (1923(大正12)年~1940(昭和15)年)
遊覧鉄道の廃止後から4年後、銚子の町に再び鉄道が走り始め、区間も外川まで延び、新たに4駅が新設された。1935年に灯台前臨時駅が新設された。灯台前臨時駅は、灯台の還暦祭のため臨時駅として造られたが、利用者が多かったこともあり、灯台前駅として常設駅になった。
(6) 灯台前駅改名からその後 (1941(昭和16)年~1950(昭和25)年)
灯台前臨時駅ができてから、犬吠埼の利用者は激減し、犬吠埼を廃止し、同時に灯台前駅を犬吠埼と改名した。

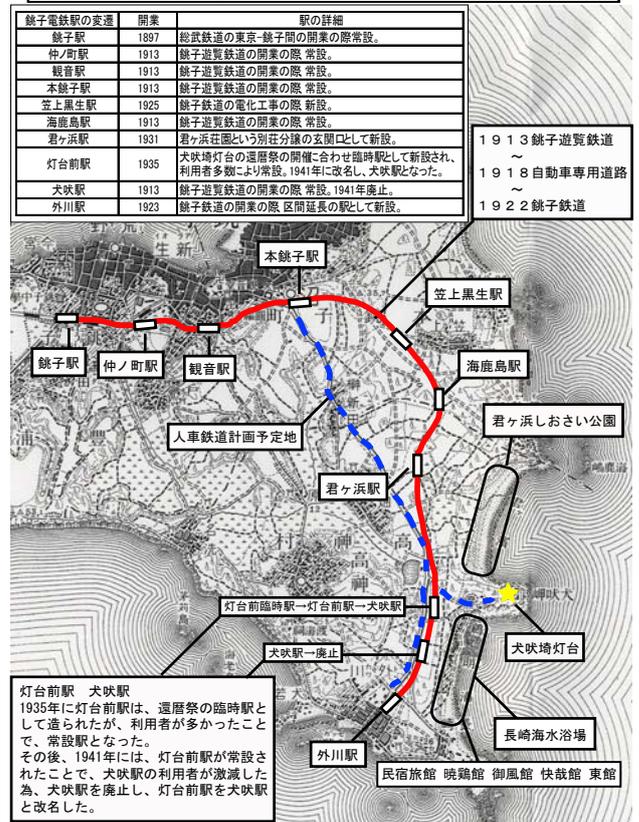


図-1 犬吠埼周辺の変遷地図

キーワード: 犬吠埼灯台, 観光, 人々の見方

連絡先 〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1 国土館大学 TEL:03-5481-3261 E-mail:g743573f@kokushikan.ar.jp

以上の結果を簡単に整理すると、①明治45年までは、だれもが簡単に訪れることができる場所ではなかった。②明治末には地元の要望で灯台までアクセスできる人車鉄道の計画が持ち上がるが実現しなかった。③その後の遊覧鉄道では、灯台付近に駅はなく、鉄道を利用する主な観光客は海水浴場や旅館の利用客であり、大正6年には廃止された。④灯台付近の駅ができるのは昭和10年であり、昭和16年にはそれまでの犬吠駅の乗降客数が激減し、灯台前駅が犬吠駅へと名称を変更するにいたった。

#### 4. 人々の見方の変化

##### (1) 観光案内書における犬吠埼灯台

42冊の文献のうち、銚子や犬吠埼に関する記事が載っているものは7冊であり、それらの全てには犬吠埼灯台についての記載があった。ただし、観光案内の記事内容には、年代ごとに変化が見られる(表-2)。

初めに灯台の構造以外の点に言及したものは、大正1年の『銚子飯岡旭町近傍』と大正6年の『銚子及近傍遊覧案内』である。それぞれには「有名なる」「偉観なる」という記述があるが、この2冊は、地元の出版社により発行されたものであることに注意する必要がある。

その後、大正7年の『大日本名勝史蹟』では、灯台は銚子港の欄で付属的に説明されている。その記述をみると、「犬吠岬は著名なる岬角にして岩壁の頂上に燈臺を設け高さ百六十八呎、晴夜光達十九海里に及ぶと云ふ。」とあり、岬が著名だとある反面、灯台については、その高さや光が届く範囲が記されているだけである。加えていえば、海水浴場についての記述の方が、灯台よりも先に記されている。

しかし、大正14年の『日本名勝旅行辞典』では、犬吠岬の欄があり、海水浴場よりも主に灯台のことに触れている。「灯台があることを以て知られ」と記述され、先ほどのとは異なり灯台が犬吠埼を代表するものとして扱われている。

以上の整理から、広い範囲を対象とした観光案内書でいえば、大正7年頃までは岬や海水浴場が注目されていたが、大正14年頃からは岬よりも灯台に注目の中心が移っていったと考えられる。

表-2 犬吠埼に関する観光案内書とその内容

タイトル	出版年	項目	記事の概要
房総半島房総名勝案内	1909(明治42)	犬吠岬	構造の説明
銚子飯岡旭町近傍	1911(大1)	犬吠岬	有名なる犬吠埼灯台はと始まり、構造の説明
銚子及近傍遊覧案内	1917(大6)	犬吠岬	偉観犬吠埼灯台と始まり、構造の説明
大日本名勝史蹟	1918(大7)	銚子港	灯台の位置と簡単な説明
関東奥羽名勝案内	1923(大12)	銚子鑑巡り	灯台の高さと簡単な説明
日本名勝旅行辞典	1925(大14)	犬吠岬	灯台があるのを以て知られると書かれ、位置、構造の説明
関東第一の魅力 銚子市	1934(昭和9)	犬吠埼灯台	建設の経緯から構造と詳しく書かれている

##### (2) 絵はがきにおける犬吠埼灯台

銚子に関する絵はがきを数多く収録している『銚子の絵はがき』、『続銚子の絵はがき』から、岬と灯台・海岸が同時に写っているもの12枚を選び、そのタイト

ル名と発行時期について整理した(表-3)。なお、発行時期については、著者である大里氏や発行元への聞き取り調査によりおこなった。



図-2 大正2年(左)と大正末(右)の絵はがき

表-3をみると、いずれも岬と灯台・海岸が同時に写っているのにも関わらず、明治45年から大正2年までの絵はがきでは、岬や海岸がタイトル名として用いられている。その一方で、大正13年以降の絵はがきでは、灯台がタイトル名として用いられるようになっている。こうした結果から、少なくとも大正2年までは岬が主になっているが、大正13年以降には主に灯台が主となっていることがわかる。

表-3 銚子に関する絵はがき

発行時期	絵はがきタイトル	写真
明治45	君ヶ浜より燈台の遠望	岬
明治45	犬吠岬海水浴場	岬
明治45	銚子海岸	岬
明治45	松林より御風館遠望	岬
明治45	君ヶ浜公園	その他
明治45	吉野屋旅館	岬
大正2	犬吠岬の遠望	岬
大正	犬吠岬全景	岬
大正	眺鷄館 客座敷より灯台を望む	岬
大正13年以降	燈台と山十醤油	灯台
昭和	空中より見た銚子犬吠埼灯台	灯台

##### (3) まとめ

当時の観光案内書と絵はがきについて整理した結果、犬吠埼周辺に対する人々の注目のされかたは図-3のように整理できる。このことから、大正7年から大正13年の間に、犬吠埼周辺における人々の興味の中心が、岬から灯台へと変化した可能性が高い。

	大正2年	大正7年	大正13年
観光案内	岬を強調	不明	灯台を強調
絵はがき	岬を強調	不明	灯台を強調

図-3 観光案内と絵はがきの変化時期

#### 6. 結論

犬吠埼周辺の空間の変遷と人々の見方の変化について考察した結果、犬吠埼周辺の観光の変化として次の結論を得た。①大正初期には地元は犬吠埼灯台を観光の目玉にする意思があったこと、②全国規模で注目が集まるようになったのは大正末であり、大正7年から大正末にかけて人々の見方が変化した可能性が高いこと、③それが広く人々に受け入れられたのは昭和10年の灯台前駅設置以降であること。

#### 主な参考文献

- ・白土貞夫：岬に行く電車，東京文献センター，2001。
- ・大里健：. 銚子の絵はがき，東京文献センター，1999。
- ・大里健：続銚子の絵はがき，東京文献センター，2002。
- ・篠崎四朗：銚子市史，国書刊行会，1981。